

受賞おめでとうございます

「第 68 回全国小・中学校作文コンクール」小学校高学年の部で最高賞の文部科学大臣賞を受賞した山田将輝くん(小野田小学校 5 年)が、12 月 4 日に市役所を訪れ、藤田市長に受賞の報告をしました。

「第 68 回全国小・中学校作文コンクール」文部科学大臣賞

小野田小学校 5 年 山田 将輝くん



祖父と過ごした大切な時間を表現

同コンクール同部門には全国から 7,499 点もの応募があり、その中から山田くんの作文が見事受賞となりました。「認知症・介護・10 歳のぼく」と題し、大好きだった尊敬する祖父が突然認知症と診断された衝撃的な出来事を 400 字詰め原稿用紙 20 枚にまとめた作文です。日ごろから印象に残った出来事や気になったことなどを書き記しているというメモを使い、3 年を振り返って仕上げました。山田くんは、祖父が困っていたテレビのリモコン操作を手伝ったり、入院後は毎日病院に通って手のマッサージをしてあげたり、手浴(手だけお風呂に入れる)をしてあげたりした様子を描写。祖父の変化を受け止めながら、変わらなかった祖父の本質的な部分を表現。作文にした理由を山田くんに聞くと、「祖父は仕事熱心で書くことが大好きでした。ぼくに言葉や文章の大切さを教えて

くれた大きな存在です」と答えてくれました。

また、受賞の知らせを聞いたのが山田くんの誕生日だったことから、「祖父からのサプライズのプレゼントだと思った」と驚き、うれしかったそうです。藤田市長は「難しいテーマを自然体で表現しているのが素晴らしい。優しい気持ちが伝わってきます」と称えました。山田くんは、作文の最後の文章を考えるのに 2 週間費やしたそうで、「悔いが残らないよう、愛情を持って接してきた。大きな賞を頂けて祖父も喜ぶと思います」「これからも作文を書くことを続けていきたいです」と話してくれました。

—ぼくがこの作文を書いたのは、祖父と過ごした大切な時間を、ぼくの中にとどめておきたかったからである。—

作文の最後に記されたのは、山田くんの強い思いでした。